

第5学年2組 算数科学習指導案（略案）

日時 平成18年10月23日（月）第4校時
場所 5年2組教室

1 小単元名 小数÷小数（啓林館 5年上 P83）

2 本時の指導

(1) 本時の目標

小数でわる計算で、ある位まで商を求め、そのときの余りの大きさについて考えることができる。

(2) 本時の主張点

児童の考えを、効果的に表現させ、共有していく方法の工夫。

(3) 本時の展開

過程	時間	学習活動 (形態)	主な発問 (○) 【評価基準AB】 予想される児童の反応 (・)	教師の支援 (☆) 【評価基準ABCへの対応】	教材 教具
つかむ・見通す	10分	1 既習の学習内容を振り返る。(徹底) $24 \div 5$ 2 問題をつかむ。	○答えはどうなるでしょう。 ○商は1の位までで、余りも必要だね。 ○どんな式になるでしょう。 ・ $24 \div 5.6$	☆既習の学習内容を想起できるようにさせる。	
24mのロープを5.6mずつに切ってなわとびを作ります。何本できて何m余りますか。					
もとめる	5分	3 計算をする。(能動) 4 答えを確認する。(徹底)	○自分の考えた式と答えをノートに書いてみましょう。 ○答えは、4本できて、16m余ります。 ・それはおかしいです。	☆教師があえて誤った答えを提示し、児童にその間違いを指摘させる。	テープ図
たかめる (本時の主張点)	20分	5 あまりの求め方について考え、意見を出し合う。(能動) 6 まとめ(徹底)	○では、本当の余りは何でしょう。 ・余りは1.6です。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【A】必要に応じて、ある位までの商をもとめ、あまりの大きさについて考えることができる。 【B】あまりの大きさについて考えることができる。</div> ・わる数×商+余りをすれば、わられる数になります。 ○余りは、わられる数のもとの小数点の位置でつけるんですね。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【A】自分で確かめる方法を言葉の式で表現できるよう促す。 【B】自分で確かめる方法を考えるよう促す。 【C】図式化したヒントカードを提示し、視覚的な思考を促す。</div> ☆ ある児童に図や式だけを書かせ、説明は他の児童にさせ、話し合いを深められるようにする。	ヒントカード
ひろげる	10分	7 練習問題に取り組む。(能動)	○練習問題を解いてみましょう。 ・仕方がわかったぞ	☆ 机間巡視をする。	P83 ②

